

経営相談 Q&A

「2013年版 中小企業白書」のポイント③（情報技術の活用）

Q

当社は機械関連の中小製造業です。今後の自社の経営方針や戦略を検討するにあたり、中小企業の動向や取り巻く状況、注目すべきトピック、政府の方針等を把握したいと考えています。参考資料として中小企業庁が毎年発表する「中小企業白書」が役立つと聞きましたが、今年度の白書のポイントについて教えてもらえますか。

A

【13年9月号「2013年版中小企業白書」のポイント②】の続き】

第2部 自己変革を遂げて躍動する中小企業・小規模事業者

4. 情報技術の活用

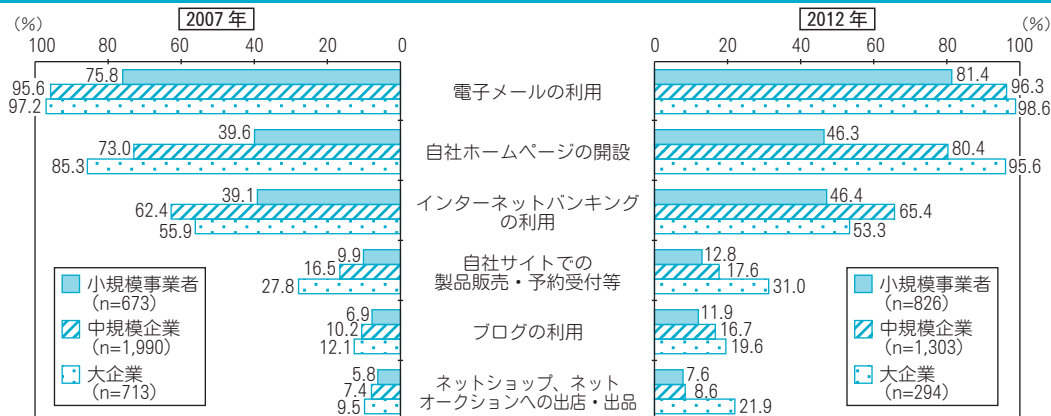
中小企業・小規模事業者は、情報技術の導入・活用において、コスト負担、人材不足の課題に直面している。

(1) ITの導入の現状

<ポイント>

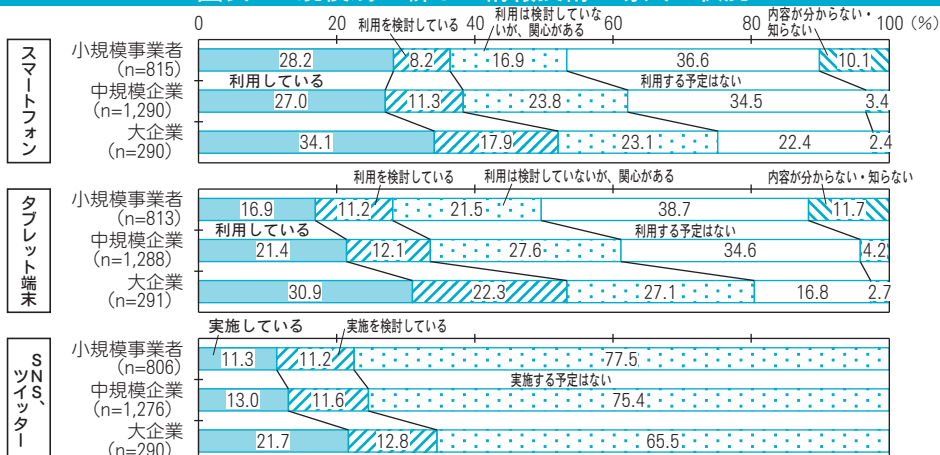
- 2007年に比べ、ITを導入している企業の割合は上昇。しかしホームページ開設など、小規模事業者でのIT導入は進んでいない（図表1）。
- 新しい情報技術の利用については、大企業の

図表1：規模別・利用形態別のITの導入の状況（2007年、2012年）



資料：中小企業庁「2013年版中小企業白書」（以下同じ）

図表2：規模別の新しい情報技術の導入の状況



方が進んでいるが、中規模企業と小規模事業者ではそれほど大きな差はない（図表2）。

（2）経営課題とITの活用

<ポイント>

- 経営課題を解決するためにITの活用が必要と考える企業は多いが、特に小規模事業者では、実際に導入した割合は半分未満（図表3）。

図表3：規模別のITの活用が必要と考えている企業の割合とITを導入した企業の割合（企業全体での総合評価）

	ITを導入した企業の割合(①)	ITの活用が必要と考えている企業の割合(②)	必要と考えている企業のうち、導入した企業の割合(①/②)
小規模事業者 (n=735)	29.3%	61.1%	47.9%
中規模企業 (n=1,182)	46.7%	78.7%	59.4%

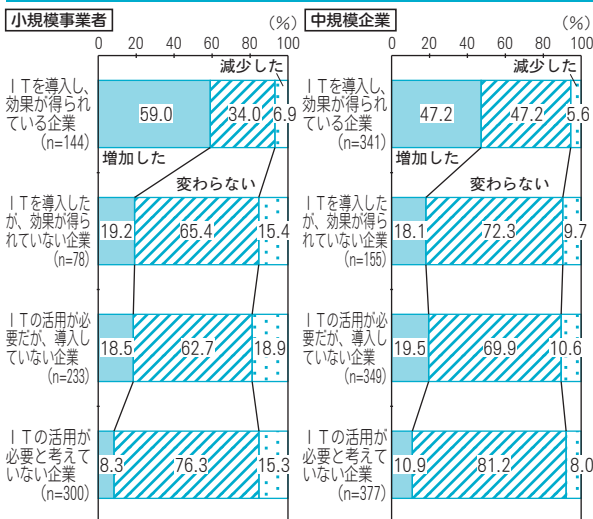
(注) ここでいう企業全体での総合評価とは、経営課題の解決のためのITの活用が必要と考えているかどうか、またITを導入したかどうかについての企業全体の総合評価をいう。

（3）ITの導入・活用の効果

<ポイント>

- IT導入の効果が得られた場合、小規模事業者を中心に、販売先との関係強化や販売先増となる可能性が高い（図表4）。
- 他方、効果が得られない場合、ITの導入コストだけが負担として残る。

図表4：規模別の「新規顧客の獲得」の経営課題に対するITの導入・活用と販売先数の増減

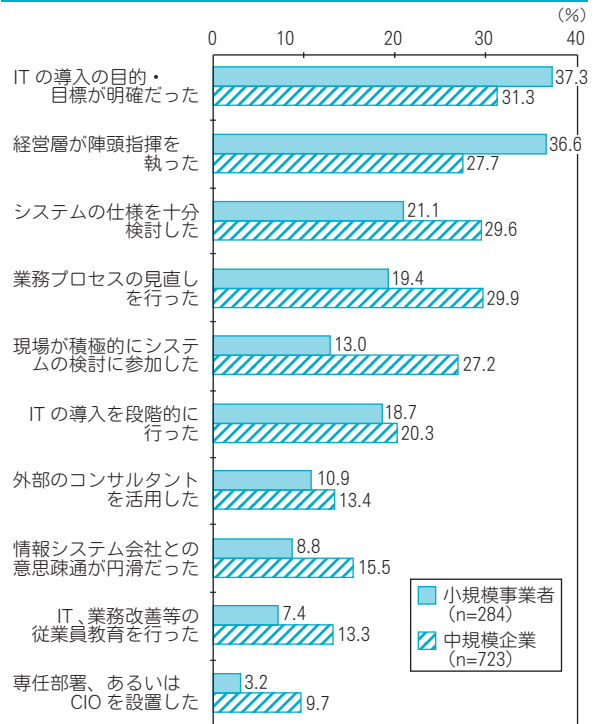


(注) 「ITを導入し、効果が得られている企業」とは、「新規顧客の獲得」の経営課題の解決のために、ITを導入した企業のうち、「期待した効果が得られている」、「ある程度の効果が得られている」と回答した企業を、「ITを導入したが、効果が得られていない企業」とは、「ほとんど効果が得られていない」、「全く効果が得られていない」、「効果が得られたか分からない」と回答した企業をそれぞれ集計している。

<ポイント>

- IT導入の効果が得るためには、目的・目標を明確にし、経営層が陣頭指揮をとる必要あり（図表5）。
- 中規模企業では、業務プロセスの見直しやシステムの仕様の十分な検討等も重要。

図表5：規模別のITの導入の効果が得られた理由（複数回答）



(注) CIOは「最高情報責任者」。企業内の情報システムや情報の流通を統括する担当役員のこと。

（4）まとめ

<ポイント>

- ITの導入は中小企業・小規模事業者においても着実に進行、スマートフォン、タブレット型端末等、新しい技術も取り入れられている。
- 一方で、規模の小さい企業ほどITが導入されていない状況は依然として続いている。
- 情報技術は、利便性を向上させる方向でますます進歩し、身近なものとなっており、その活用は、多くの中小企業・小規模事業者にとっても避けられないものとなりつつある。

以上で『「2013年版中小企業白書」のポイント』の項終わり。

(吉村謙一)